

科目名	看護学概論	科目コード	N30001
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	阿部 テル子		
概要	看護の基礎として歴史的な変遷、看護の概念、看護の構造や機能、役割について体系的に学び、看護に関する基礎的知識・態度を習得するとともに、看護の本質を考える。また、保健医療福祉などの各分野における看護の役割と連携について学習し、看護職としての自己の看護観を養う。さらに、災害看護の概念、対象および看護活動の特徴、災害サイクルと看護に関する基礎的知識を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念を理解し、看護とは何かについて自分の考えを述べることができる。 2. 看護の概念と関連付けて看護の機能・役割・活動を考えることができる。 3. 看護の歴史的変遷を理解し、次代の看護・看護職に対する展望を持つことができる。 4. 看護の機能・役割を理解し、保健医療福祉チームにおける看護専門職者としての役割、連携について理解できる。 5. 災害看護の概念、対象、看護活動の特徴を理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 看護とは何かー1:看護の概念・定義 2. 看護とは何かー2:看護の概念・定義 3. 看護とは何かー3:看護の目的・目標 4. 看護とは何かー4:看護の対象、対象の理解 5. 看護とは何かー5:看護の構成要素 6. 看護の歴史ー1:看護史を学ぶ意義、原始および古代の看護 7. 看護の歴史ー2:中世、近世、近代の看護・看護教育、ナイチンゲールの看護の思想 8. 看護の歴史ー3: 現代における看護 国民の健康問題、疾病・医療の特徴と看護に求められるもの 9. 看護の歴史ー4: 現代における看護 総合看護、看護の独自性・専門性、看護活動の多様性 10.看護の歴史ー5: 現代における看護 看護教育、看護理論、これからの看護 11. 看護実践と看護活動ー1: 看護の機能・業務・役割、看護活動 12. 看護実践と看護活動ー2: 保健医療福祉活動と看護 13. 看護実践と看護活動ー3: 看護実践と看護倫理、法 14. 災害看護 災害看護の概念、歴史、対象、看護活動の特徴 15.まとめ 		
評価方法	レポート・試験によって評価する。 レポート・試験は授業の進行状況に合わせて期間中に随時行う。		
教材・教科書	松木光子著:看護学概論、ヌーベルヒロカワ		
留意点	看護学および看護実践の基礎となる科目である。 本科目は1年次後期の基礎看護学実習Ⅰおよび2年次後期の基礎看護学実習Ⅱを履修するために単位修得が必要条件となっている。自己責任において授業への出席、自己学習を行ない、単位を習得できるように留意されたい。		

科目名	医療・看護倫理	科目コード	N30002
対象学年	1年	開講学期	前期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	木村 紀美		
概要	看護ケアに関連する倫理規定、病気の告知と倫理、高度医療と倫理など身近にある課題を取り上げ、看護を実践・展開していく過程で考慮しなければならない倫理的問題について学ぶ。また、医療現場における患者の人権、自己決定権などの視点から医療の倫理を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的判断の基盤となる倫理上の基本的原理を理解し、説明できる。 2. 看護師の倫理規定について理解できる。 3. 臨床で遭遇する倫理的問題について理解し、説明できる。 4. 患者・看護者、それぞれの倫理的判断と責務について理解し、説明できる。 5. 看護実践や研究において、倫理的に対処するための方法論があることを理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理とは、医療に関する倫理学 2. 看護実践と倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床で遭遇する倫理的問題 ・看護実践上の道徳的判断 3. 看護者の権利と義務 4. 医療場面における倫理的課題 <ul style="list-style-type: none"> ・治療の選択をめぐる倫理的問題 5. 死をめぐる倫理的課題 6. 倫理的判断の基盤となるもの <ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利と責務 7. 看護研究と倫理 8. まとめ 		
評価方法	レポート:10点、記述試験:90点		
教材・教科書	看護学概論、成人看護学概論で使用しているテキスト		
留意点	個々の事例について倫理的視点で考える力をつけて欲しい。		

科目名	看護過程論	科目コード	N30003
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	阿部 テル子・渡部 菜穂子		
概要	対象の健康問題を解決するためのプロセスである看護過程に関する知識・技術を習得し、看護過程を展開する基礎的能力を養う。また、学習を通して、看護を展開するための科学的・論理的思考、問題解決的思考の基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概念、概要、看護過程に沿った看護実践の必要性を理解できる。 2. 看護過程の各段階を理解し、既習の知識を活用して展開できるようになる。 3. 看護過程の各段階を、科学的・論理的に思考展開できるようになる。 4. 看護過程を展開して看護計画を立案できるようになる。 5. 看護過程の学習を通して、看護における科学的・論理的思考展開の必要性を理解できるようになる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概念、概要、意義 2. 情報収集-1 3. 情報収集-2 4. 情報収集-3 5. 情報分析・問題の明確化-1 6. 情報分析・問題の明確化-2 7. 情報分析・問題の明確化-3 8. 情報分析・問題の明確化-4 9. 看護診断-1 10. 看護診断-2 11. 看護計画-1 12. 看護計画-2 13. 看護計画-3 14. 看護の実施・記録・評価 15. 看護の実施・記録・評価、まとめ 		
評価方法	レポートにより評価する。		
教材・教科書	ロザリンド・アルファロールフィーヴァ、基本から学ぶ看護過程と看護診断、医学書院 リンダ・カルペニート=モイエ、看護診断ハンドブック、医学書院 その他適宜資料配布。		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業は、前回の授業内容をもとに進めるので、授業に欠席するとその後の授業内容の理解が困難になります。 ・授業方法は自己学習を中心とするので、自ら学習する態度で臨むこと。他力本願では履修できません。 ・必修科目であること、看護学実習を履修するために必要不可欠の知識であることを認識し、授業に臨んでほしい。 ・2年次後期の基礎看護学実習Ⅱを履修するには、当科目の単位を修得していることが必要である。 		

科目名	基礎看護技術論	科目コード	N30004
対象学年	1年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	工藤 千賀子・渡部 菜穂子		
概要	看護技術の考え方、および看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基礎的看護技術について科学的根拠に基づいて学習する。看護の実践者である看護職と看護の対象との相互作用についても学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは何か、人間に対して看護技術を適用していくことはどういうことかを理解する。 2. 看護行為に共通する援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 3. 看護行為に共通する援助技術を習得する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 看護実践の構造 3. コミュニケーション技術 4. コミュニケーション技術 5. 看護過程とクリティカルシンキング 6. 生命の徴候を観察する技術 7. バイタルサイン測定(演習) 8. バイタルサイン測定(演習) 9. 看護記録 10. ボディメカニクス 11. 療養環境 12. ベッドメイキング 13. ベッドメイキング(演習) 14. ベッドメイキング(演習) 15. まとめ 		
評価方法	2/3以上の出席者について、出席状況(15点)、レポート(5点)、筆記試験(80点)		
教材・教科書	教科書 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術、メディカ出版 参考書 藤野彰子他監修:看護技術ベーシックス 改訂版、医学芸術社 その他、随時資料を配布する		
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」と関連させ、学習すること ・予習(教科書を読む、わからない言葉を調べる、ノートに書く)、復習(教科書を読む、専門用語を書き、意味を調べ、理解する)、自己演習(援助技術を予め練習したり、演習後練習する)を行って、考えながら看護技術が習得できるように努力すること		

科目名	基礎看護技術演習 I	科目コード	N30005
対象学年	1年	開講学期	通年 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	工藤 千賀子・渡部 菜穂子		
概要	看護の対象のニーズと安全・安楽・自立を踏まえた援助技術を学ぶ。身体の清潔、食事と栄養、排泄などの基礎的な看護技術を習得し、さまざまな状況に対応して実践できるための看護実践能力を養う。さらに、フィジカルアセスメントについて理解し、得られた情報を活用できる基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康的な日常生活行動を促進する援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 2. さまざまな健康レベルの人に対して、最も適切な看護を行うための援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 3. 人間の欲求と安全・安楽・自立を踏まえた基礎看護技術を習得する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防 2. 休息・睡眠を促す技術 3. 休息・睡眠を促す技術 4. 安楽な体位 5. 活動・運動を支援する技術 6. 体位変換(演習) 7. 体位変換(演習) 8. 移動・移送(演習) 9. 移動・移送(演習) 10. リネン交換(演習) 11. リネン交換(演習) 12. 食事・栄養摂取を促す技術 13. 食事・栄養摂取を促す技術 14. 口腔ケア 15. まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 経口栄養法(演習) 17. 経口栄養法と口腔ケア(演習) 18. 排泄を促す技術 19. 床上での排尿・排便の援助(演習) 20. 身体の清潔を援助する技術 21. 身体の清潔を援助する技術 22. 洗髪(演習) 23. 洗髪(演習) 24. 清拭(演習) 25. 手浴と足浴(演習) 26. 衣生活 27. 寝衣交換(演習) 28. まとめ 29. まとめ 30. まとめ 	
評価方法	4/5以上の出席者について、レポート(10点)、筆記試験(50点)、実技試験(40点)		
教材・教科書	教科書 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術、メディカ出版 参考書 1藤野彰子他監修:看護技術ベーシックス 改訂版、医学芸術社 その他、随時資料を配布する		
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」と関連させ、学習すること ・予習(教科書を読む、わからない言葉を調べる、ノートに書く)、復習(教科書を読む、専門用語を書き、意味を調べ、理解する)、自己演習(援助技術を予め練習したり、演習後練習する)を行って、考えながら看護技術が習得できるように努力すること		

科目名	基礎看護技術演習Ⅱ	科目コード	N30006
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	工藤 千賀子・渡部 菜穂子		
概要	治療に関する看護技術について、演習を通して、その理論と方法を実践的に学習する。また、診療を受けている人々の安全と安楽をはかり、適切に実践できるための基礎的な看護技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 2. 治療・処置を受ける対象者の心身の状態を理解し、看護者の役割と責任を理解する。 3. 特殊な状況下(救急時、危篤・終末時)にある対象者を理解するために必要な、基礎的知識を理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・創傷を管理する技術 2. 無菌操作(演習) 3. 包帯法(演習) 4. 呼吸を楽にする技術 5. 安楽かつ快適さを確保する技術 6. 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 7. 身体計測(演習) 8. 採血(演習) 9. 与薬を安全かつ正確に行う技術 10. 注射法(演習) 11. 注射法(演習) 12. 救命救急処置の技術 13. 危篤・終末時における技術 14. まとめ 15. まとめ 		
評価方法	4/5以上の出席者について、レポート(10点)、筆記試験(50点)、技術試験(40点)		
教材・教科書	教科書 ナーシンググラフィカ [®] 基礎看護学 基礎看護技術、メディカ出版 参考書 藤野彰子他監修:看護技術ベーシックス 改訂版、医学芸術社 その他、随時資料を配布する		
留意点	・既習の授業科目と関連させ、学習すること ・予習(教科書を読む、わからない言葉を調べる、ノートに書く)、復習(教科書を読む、専門用語を書き、意味を調べ、理解する)、自己演習(援助技術を予め練習したり、演習後練習する)を行って、考えながら看護技術が習得できるように努力すること		

科目名	看護対象論	科目コード	N30007
対象学年	1年	開講学期	後期 15時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	阿部 テル子		
概要	健康や健康障害の概念・定義を理解し、それぞれの健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識を学ぶ。さらに、看護の対象となる人々の一生を通しての健康のとらえ方やそれらの人々を取り巻く家族や生活環境、社会状況について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康、健康障害の概念を理解できる。 2. 健康・健康障害と生活環境(自然環境、文化的・社会的環境、家族)との関連を理解できる。 3. 健康障害が人々の心身社会生活に与える影響を理解できる。 4. 健康レベルに応じた看護活動を理解できる。 5. 人間の一生を通しての健康問題を理解し、必要な看護を考えることができる。 6. 健康障害のある生活者とその看護(看護の独自の機能:Henderson,V.)を理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康・環境・人間 2. 看護の対象としての人間理解 3. 看護の対象としての個人・家族・集団・地域 4. 健康障害および健康障害のある生活者の理解 5. 健康障害のある生活者の看護(看護の独自の機能:Henderson,V.) 6. 健康レベルと看護活動 (健康増進、疾病予防、健康回復、リハビリテーション看護、ターミナル看護、訪問看護・介護支援) 8. まとめ 		
評価方法	レポート・試験によって評価する。		
教材・教科書	松木光子著:看護学概論、ヌーベルヒロカワ その他、適宜資料を配布する。		
留意点	本科目は選択科目であるが、他の実践科目や臨地実習での学びと関連の深い科目であるので、できるだけ履修することを勧める。		

科目名	救急看護	科目コード	N30008
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	木村紀美・藤野 智子・小峯ちぐさ		
概要	<p>救急医療の概念を理解し、救急医療体制の概要、プレホスピタル、初療外来、集中治療について代表的疾患を学びながら、診断・治療・看護のために必要な知識・技術について学習する。</p> <p>さらに、災害医療、心肺脳蘇生法などについて学び、救急医療の場面で求められる基本的技術を習得する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療の概念や看護の特性を理解する。 2. 救急医療の場面で、患者・家族の特徴と求められる看護援助について理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 救急蘇生法① 2 救急蘇生法② 3 救急医療の概念 4 クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 5 患者のアセスメント 6 病態の特徴とケア① 7 病態の特徴とケア② 8 救急看護に必要な看護技術① 9 演習 10 救急看護に必要な看護技術② 11 演習 12 救急看護に必要な看護技術③ 13 演習 14 救急看護と倫理 15 まとめ 		
評価方法	出席(30%)と筆記試験(70%)		
教材・教科書	医学書院 系統看護学講座 『救急看護学』		
留意点			

科目名	リハビリテーション論	科目コード	N30009
対象学年	2年	開講学期	後期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	石川 玲		
概要	<p>高齢者および慢性疾患の増加にともなってリハビリテーションの重要性はますます高まっている。リハビリテーションを効率的に進めるためには関係職種が互いの専門性を理解し合い、協働することが求められる。</p> <p>本授業では、リハビリテーションの概念と、医学的リハビリテーションにおける代表的な治療法である理学療法学の概要について学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの基本的な概念を理解する。 2. 理学療法の概念とその中心的な治療法である運動療法の基礎を理解する。 3. 看護場面での腰痛の予防方法をバイオメカニクスの観点から理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション総論 概念、障害、方法論 2. 理学療法の概念と基礎 定義、対象、運動の種類、運動療法に用いる機械器具 3. 関節可動域運動とストレッチング 4. 筋力増強と体力向上のための運動療法 5. 車椅子と歩行補助具 6. 腰痛とバイオメカニクス 7. 腰痛予防体操の実際 (実技) 8. まとめ 		
評価方法	成績評価は筆記試験で行う。		
教材・教科書	プリントを配付する。		
留意点	「7. 腰痛予防体操の実際」は実技を行うので、運動着に着替え、各自バスタオルを1枚持参すること。		

科目名	安全管理	科目コード	N30011
対象学年	2年	開講学期	後期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	砂田 弘子		
概要	<p>医療安全の意義を理解し、対象者の安全確保・医療事故を防止するための対策について学習する。さらに医療事故・医療過誤の実例をもとにその背景・要因・防止対策を考え、法的責任範囲を含めた医療リスクマネジメントのあり方について学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.医療安全の意義、安全管理のあり方について理解する。 2.医療事故がどのような状況で発生するか理解する。 3.医療事故を防止するための対策を理解する。 4.医療事故に伴う看護師の法的責任について理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.医療安全と看護の責務 2.ヒューマンエラーとその対応 3.医療安全、国の取り組み、組織としての取り組み 4.医療事故の構造と事故事例の分析 5.事故事例を通して防止対策を考える 6.医療訴訟・法的責任 7.看護業務上の危険と防止策 8.まとめ 		
評価方法	授業への出席状況(10%)筆記試験(90%)により総合評価		
教材・教科書	川村治子著 医療安全・看護の統合と実践[2] 医学書院		
留意点	医療安全に関連する情報に注目し、主体的に学習すること。		

科目名	家族看護学	科目コード	N30013
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	楯引 美代子		
概要	<p>看護の対象としての家族に焦点を当て、現代の家族の諸問題を考えながら、「家族」の理論と家族支援の方法について学習する。</p> <p>また、家族のライフサイクルにおける機能を理解し、家族間の相互関係の発達と家族の危機状況から回復するための援助について学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における家族について理解できる。 2. 家族看護における看護職の役割を理解できる。 3. 看護の対象として、家族を捉えることができる。 4. 家族のアセスメント方法を理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学の歴史と発展 2. 家族の変容と概念 3. 家族の発達過程 4. 家族の形態と機能 5. 家族の健康と家族を取り巻く環境 6. 家族看護理論 7. 家族看護理論 8. 家族看護アセスメント 9. 家族看護診断 10. 家族看護計画 11. グループワーク 12. グループワーク 13. グループワーク発表 14. まとめ 15. 予備 		
評価方法	<p>2/3以上の出席者について 定期試験 80%、出席状況 10%、受講態度およびレポート 10%</p>		
教材・教科書	<p>随時、紹介する。</p> <p>参考資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第4版、日本看護協会出版会 2. 小林奈美：グループで学ぶ家族看護論、医歯薬出版株式会社 3. JOANNA ROWE KAAKINNE：FAMILY HEALTH CARE NURSING 4th、F.A.Davis Company 		
留意点	<p>グループワークは、予習等の準備をして出席すること。</p>		

科目名	成人看護学概論	科目コード	N30014
対象学年	1年	開講学期	後期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	木村 紀美・福岡 裕美子・畠山 禮子		
概要	成人期にある人の特徴と成人期の特徴的な健康問題を学ぶことにより成人看護学という大人を対象とした看護の基盤となる考え方や援助の方法を学ぶ。また、成人が加齢とともに健康を損なう過程、その間の生活習慣を改め健康を増進するより積極的な看護、さらに健康上の問題をもつ成人に対する系統的アプローチとして、問題解決のプロセスを学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の生活と健康を理解する。 2. 成人への看護アプローチの基本を理解する。 3. 成人の健康レベルに対応した看護を理解する。 4. 成人の健康生活を促すための看護を理解する。 5. 健康上の問題をもつ成人に対する問題解決のプロセスを理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学の概念と構成 看護理論の応用・成人看護学の対象論・成人看護学の援助論 2. 成人看護学の特性 成人保健の動向・ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義・成人の発達段階・身体的、精神的、社会的、スピリチュアルに重要な時期 3. 保健・医療・福祉における動向と課題 成人期における健康障害の特徴・一次、二次、三次予防の現状と対応 4. 健康レベルにおける枠組み 健康の定義・ヘルスプロモーションを必要とする対象・治療を必要とする対象・健康の再構築への支援を必要としている対象 5. 成人看護に使用される理論・モデル① ケアリング・セルフケア論・自己効力理論・適応理論・エンパワーメント 6. 成人看護に使用される理論・モデル② ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論・生体侵襲理論・患者、家族への健康教育 7. 成人看護に使用される理論・モデル③ アンドラゴジー・不確かさ・アドヒアランス・病の軌跡 8. まとめ 		
評価方法	授業参加態度(10%)、レポート(10%)、記述試験(80%)を総合的に評価する。		
教材・教科書	成人看護学概論 第2版 スーヴェルヒロカワ		
留意点	主体的に授業に参加してください。 予習・復習を心がけてください。		

科目名	成人看護学Ⅰ(慢性期)	科目コード	N30015
対象学年	2年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	福岡 裕美子・畠山 禮子・新田 純子・三上 ふみ子		
概要	成人期に慢性的な健康問題を抱える人とその家族が、病状を管理し日常生活を構築するための援助の方法を学ぶ。総論で慢性期看護やがん看護の基本的な概念を学び、各論では代表的な疾患を取り上げ、それぞれの疾患の理解と効果的な援助方法について学びを深める。またその中で、看護実践に必要な看護技術、看護過程を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期にある人やその家族の特徴を理解するための基盤となる理論や諸概念を理解する。 2. 慢性期にある代表的な疾患をもつ人とその家族が病状を管理し日常生活を構築するための援助方法を理解する。 3. 慢性期にある人が直面するさまざまな問題状況に応じた看護実践に必要な看護技術、看護過程を理解する。 		
授業内容	<p><慢性期看護総論></p> <p>1 慢性疾患患者への看護の特徴と対象理解</p> <p>2 慢性疾患患者への援助・支援</p> <p><慢性期看護各論></p> <p>3.4 慢性の循環機能障害を持つ患者の看護</p> <p>5.6 慢性の消化機能障害を持つ患者の看護</p> <p>7 慢性の内部環境調節障害を持つ患者の看護</p> <p>8 慢性の脳・神経機能障害を持つ患者の看護</p>	<p>9.10 慢性の造血機能障害を持つ患者の看護</p> <p>11 慢性の免疫機能障害を持つ患者の看護</p> <p>12 まとめ(中間)</p> <p>13.14 慢性疾患患者の看護過程</p> <p>15～22 慢性の呼吸機能障害を持つ患者の看護(演習)</p> <p>技術演習：呼吸を楽にする援助</p> <p>23～30 慢性の代謝機能障害を持つ患者の看護(演習)</p> <p>技術演習：自己血糖測定</p>	
評価方法	評価の配分：試験 40%、演習(学習内容・参加態度・ピア評価等)60%		
教材・教科書	<p>教科書:成人看護学 慢性期看護 南江堂</p> <p>病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 医学書院(急性期と共用)</p> <p>参考書:系統看護学講座 成人看護学1～11 医学書院</p>		
留意点	<p>看護基礎科目で学習した内容を復習し、授業内容を関連づけて学ぶこと。</p> <p>授業・演習の事前準備を十分に行い、主体的に参加すること。</p> <p>授業・演習を欠席することがないよう、自己の健康管理に留意すること。</p>		

科目名	成人看護学Ⅱ(急性期)	科目コード	N30016
対象学年	2年	開講学期	後期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	福岡 裕美子・木村 紀美・新田純子・周 馨麗・三上ふみ子		
概要	急性期および周手術期、リハビリテーション期にある対象とその家族への看護を学ぶ。健康レベルが著しく低下した人、生命の危機的状況にある人や術前・中・後の人の健康問題を総合的に理解し、個々の問題に応じた援助方法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期および周手術期、リハビリテーション期にある人とその家族の特徴を理解するための理論や概念が理解できる。 急性期および周手術期、リハビリテーション期にある人の特徴と看護が理解できる。 急性期および周手術期、リハビリテーション期にある人の問題状況に応じた科学的根拠に基づいた看護実践方法が理解できる。 		
授業内容	<p>1-2 急性期看護の概要 急性期看護の概念・急性の状態にある患者および家族の特徴</p> <p>3-6 周手術期看護 周手術期看護とは・術前、術中、術後の看護・退院に向けた援助</p> <p>7-8 脳神経機能の再確立 ー開頭術を受ける患者の看護</p> <p>9-10 呼吸機能の再確立 ー肺葉切除術を受ける患者の看護ー</p> <p>11-12 循環機能の再確立 ー冠動脈バイパス術を受ける患者の看護ー</p> <p>13 摂取機能の再確立 ー胃切除術を受ける患者の看護ー</p> <p>14-15 摂取機能の再確立 ー食道再建術を受ける患者の看護ー</p> <p>16-17 排泄機能の再確立 ーストマ造設術を受ける患者の看護ー</p> <p>18 消化機能の再確立 ー肝臓・胆嚢の切除術を受ける患者の看護ー</p> <p>19-20 内分泌機能の再確立 ー甲状腺の手術を受ける患者の看護ー</p> <p>21 感覚機能の再確立 ー感覚器の手術を受ける患者の看護ー</p> <p>22-24 運動機能の再確立 ー人工関節置換術を受ける患者の看護ー</p> <p>25-29 生殖機能の再確立 ー乳房切除術を受ける患者の看護ー</p> <p>30 まとめ *途中小テストを数回実施する。</p>		
評価方法	出席状況(10%)、試験(40%)演習評価(50%(小テスト・学習内容・参加態度等))から総合して評価する。		
教材・教科書	<ol style="list-style-type: none"> 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護, 南江堂 系統看護学講座 別巻②『臨床外科看護各論』医学書院(疾病論Ⅲと共通) 疾患別看護過程+病態関連図 医学書院(成人看護学Ⅰ(慢性期)と共通) 		
留意点	1年生で習得した基礎科目、実践科目での学習内容を関連づけて学習するようにする。予習・復習を行うこと。		

科目名	成人看護学Ⅲ(終末期)	科目コード	N30017
対象学年	2年	開講学期	後期 15時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	木村 紀美		
概要	<p>緩和ケア、終末期の看護について学習する。緩和ケアでは、患者の苦痛・苦悩を全人的苦痛と言う包括的な概念で捉え、QOLの向上をめざした看護を学ぶ。終末期の看護では、患者の身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペイン等を理解し、患者とどのように向き合っていくのか、人格を尊重したケアについて学ぶ。また、チームアプローチ、家族への援助、在宅ケア、ホスピスについても学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 緩和ケアとは何かを述べることができる。 2 患者の抱える全人的苦痛とQOLについて述べることができる。 3 全人的苦痛に対する看護について述べることができる。 4 緩和ケアにおけるチームアプローチの重要性を述べることができる。 5 家族・遺族へのケアの方法を述べることができる。 6 医療従事者のストレスと対処方法を述べることができる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1、緩和ケア概論 <ul style="list-style-type: none"> ・全人的苦痛とQOL ・緩和ケア、ターミナルケア、サポーティブケア、エンドオブライフケア ・ホスピス・在宅緩和ケア ・緩和ケアの歴史 2、緩和ケアにおける看護の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア病棟 ・緩和ケアチーム ・在宅緩和ケア 3、全人的苦痛の症状とその治療・看護 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的症状 ・精神的症状 ・社会的ケア 4、スピリチュアルケア、臨死期のケア 5、家族ケア <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象としての家族 ・悲嘆と遺族ケア 6、医療従事者のストレスと対処方法 7、まとめ 		
評価方法	レポート:10点、記述式試験:90点		
教材・教科書	南江堂:NICE『緩和ケア』		
留意点	遅刻は認めない。指定範囲の箇所は、必ずテキストを読む習慣を身につける。事例・課題について深く考えること。		

科目名	老年看護学概論	科目コード	N30018
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	加賀谷 紀子		
概要	<p>老年看護の概念と、ライフサイクルからみた老年期の特徴、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について学習する。</p> <p>また、高齢者を取り巻く家族の現状と課題、高齢者を支える保健・医療・福祉制度を理解し、高齢者の QOL と生きがいおよび、人権と倫理的問題の現状と課題について考える。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 高齢者の生活の変化を理解する。 3. 高齢者を取り巻く家族の現状と課題を理解する。 4. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度の現状と課題を理解する。 5. 高齢者の尊厳について考え人権や倫理問題の現状と課題を理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の概念 2. 老いとは。ライフステージからみた老年期の特徴 3. 加齢に伴う身体的変化 4. 加齢に伴う心理的・社会的変化、高齢者の性 5. 高齢者の生きがいと QOL 6. 高齢者の保健・医療・福祉制度①—人口高齢化と老年保健・医療・福祉の動向 7. 高齢者の保健・医療・福祉制度②—ソーシャルサポートシステム 8. 高齢者と家族 9. 介護保険制度 10. 高齢者の尊厳・人権と倫理的問題①—高齢者の差別・虐待 11. 高齢者の尊厳・人権と倫理的問題②—高齢者の身体拘束 12. 高齢者の尊厳・人権と倫理的問題③—高齢者の自殺と事故防止 13. 高齢者の疑似体験① 14. 高齢者の疑似体験② 15. まとめ 		
評価方法	筆記試験 80 点・演習参加状況・出席状況 20 点(総合的評価)		
教材・教科書	新体系看護学全書 老年看護学①老年看護学概論・老年保健 メジカルフレンド社		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト配布資料の熟読及び持参。 高齢者に関する社会的情勢についての情報に関心を持つ。 2. 身近に存在する高齢者に関心を持つ。 		

科目名	老年看護学 I	科目コード	N30019
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	加賀谷 紀子・小野 綾		
概要	1. 加齢に伴う主な症状と病態について学び、それに対する援助方法を理解する。		
到達目標	1. 症状からみた病態との関係を理解し、その援助方法を理解する。 2. 障害を持つ高齢者の特徴と援助方法を理解する。 3. 「老年看護学概論」で学んだ高齢者の特徴を基盤とし、加齢や健康障害が高齢者に及ぼす影響を知る。		
授業内容	1. 障害を持つということ 障害—身体的・精神的・社会的特徴 2. 障害を持つということ 生活・家族・社会参加 3. 症状とその看護 うつ状態・うつ病 4. 症状とその看護 麻痺・しびれ・振戦 5. 症状とその看護 転倒・骨折・骨粗鬆症 6. 症状とその看護 構音・言語障害(脳血管障害・脳梗塞) 7. 症状とその看護 動悸・不整脈 8. 症状とその看護 呼吸困難・息切れ・せき(結核) 9. 症状とその看護—脱水 10. 症状とその看護—搔痒感・痛み 11・障害別看護—褥瘡とその予防 12・障害別看護—聴覚・視覚障害(難聴・老人性白内障) 13・障害別看護—大腿頸部骨折とその看護 14・障害別看護—変形性関節症とその看護 15・まとめ		
評価方法	筆記試験 80点・レポート・演習参加状況 20点(総合的評価)		
教材・教科書	新体系看護学全書 老年看護学①老年看護学概論・老年保健 ②健康障害を持つ高齢者の看護 メジカルフレンド社		
留意点	授業での内容は、必要な知識のごく一部です。積極的に幅広く学習することと、予習、復習をする態度を養うこと。		

科目名	小児看護学概論	科目コード	N30021
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	齋藤 美紀子		
概要	小児の成長・発達の特徴、小児と家族の関係、望ましい成育環境、小児をとりまく社会環境等を学び、小児看護の基本となる概念と援助について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象、役割、活動分野の概要が理解できる 2. 小児の成長発達の特徴が理解できる 3. 小児と家族をとりまく社会環境について理解できる 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学オリエンテーション、授業概要説明 小児看護の対象 2. 小児看護の目的・役割／小児と家族の諸統計" 3. 小児の成長発達 4. 小児の栄養 5. 新生児・乳児 6. 乳児 7. 幼児 8. 学童 9. 思春期・青年期 10. 小児にとっての家族 11. 予防接種 12. 小児看護の変遷 13. フィジカルアセスメント 14. バイタルサイン・身体計測 15. 学習内容の確認・まとめ 		
評価方法	レポート(10)、筆記試験(90)。出席は毎回確認する。		
教材・教科書	教科書：「系統看護学講座専門 22 小児看護学 (1)」医学書院 参考書：授業中に適宜紹介 その他、資料配付やVTR等の教材を使用する。		
留意点	内容が多いので予習・復習をしっかりと行って授業に参加して下さい。 この科目を修得しないと、小児看護学 I 以降の小児看護の専門科目は受講できません。		

科目名	小児看護学 I	科目コード	N30022
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	齋藤 美紀子・齋藤 史恵		
概要	疾患・障害を持つ小児と家族の看護について系統的に学ぶ。小児の入院環境、入院が小児と家族に及ぼす影響、疾病の経過と看護の特徴、症状を示す小児のアセスメントと援助方法等を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病が小児と家族に及ぼす影響を理解できる 2. 疾病の経過における看護の特徴を理解できる 3. 小児の疾患に多く見られる症状の特徴とアセスメントおよび援助のポイントが理解できる 4. 小児の入院環境の特徴と具体的援助方法が理解できる 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病・障害が小児と家族に与える影響 2. 慢性期にある小児と家族の看護 3. 急性期・周手術期の小児の看護 4. 終末期の小児と家族の看護 5. 症状を示す小児の看護 (1) 一般状態・痛み 6. 症状を示す小児の看護 (2) 呼吸困難・チアノーゼ・ショック 7. 症状を示す小児の看護 (3) 貧血・出血・黄疸 8. 症状を示す小児の看護 (4) 発熱・嘔吐 9. 症状を示す小児の看護 (5) 下痢・便秘 10. 症状を示す小児の看護 (6) 脱水・浮腫 11. 症状を示す小児の看護 (7) けいれん 12. 検査・処置を受ける小児の看護 13. 外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護 14. 障害のある小児と家族の看護 15. 学習内容の確認とまとめ 		
評価方法	レポート(5)、筆記試験(90)、授業参加状況(5)		
教材・教科書	<p>講義を中心に、プリント、VTR等使用。演習、グループワークを適宜取り入れる。事前テストを実施。</p> <p>教科書：①「系統看護学講座専門 22 小児看護学(1)医学書院。②「臨床病態学 小児編」, ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>参考書は授業中に適宜紹介。</p>		
留意点	<p>小児看護学概論・人体の構造と機能、疾病論の学習内容と深く関連しています。既習得の内容を確認しながら学習を進めて下さい。非常に内容が多いので受講する前に予習をしっかりと行って下さい。</p> <p>この科目を修得しないと小児看護学Ⅱ以降の小児の専門科目は受講できません。</p>		

科目名	母性看護学概論	科目コード	N30024
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	楯引 美代子		
概要	母性の生涯発達における変化や特徴について学習する。生命誕生、妊娠・分娩・産褥期の女性に対する母性看護の機能と役割について十分認識し、母性看護活動に必要な知識を修得する。また、母性を取り巻く諸問題ならびにわが国の母子保健制度についても学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の概念および母性看護の対象を理解する。 2. 母性のライフステージ、母性の身体的・心理的・社会的発達、特徴を理解する。 3. 母性看護の歴史、組織体系と関連法規を理解する。 4. 母性看護の機能と役割を理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、母性イメージ 2. 母性とは、母性看護の基盤となる概念 3. 人間の性、セクシュアリティの発達 4. 母性看護の対象と母性看護のあり方 5. リプロダクティブヘルス/ライツ 6. 母性看護の変遷・母子保健制度 7. 母性看護の対象理解：母性のライフサイクルと発達 8. 思春期の健康と看護 9. 成熟期の健康と看護 10. 更年期の健康と看護 11. 老年期の健康と看護 12. リプロダクティブヘルス/ライツと諸問題 13. リプロダクティブヘルス/ライツと諸問題 14. 母子保健 15. まとめ 		
評価方法	2/3以上の出席者について 定期試験 80%、出席状況 10%、受講態度およびレポート 10%		
教材・教科書	教科書 1. 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論、医学書院 参考資料 1. 村本淳子・森明子編：母性看護学概論、医歯薬出版 2. 吉澤豊予子編：女性の生涯看護学、真興交易 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。		
留意点	母性看護学Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目である。紹介文献を読み、自己学習すること。		

科目名	母性看護学 I	科目コード	N30025
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	榎引 美代子・工藤 優子		
概要	<p>妊娠の成立、胎児の発達、妊娠・分娩・産褥期の母体の生理的変化と新生児の生理について理解し、母子の安全を確保するために必要な看護について学習する。妊婦の健康診査の意義、妊娠高血圧症の予防と早期発見、および妊産褥婦・新生児の健康保持、増進について援助できる基礎を学習する。また、母性看護に必要な基本技術、産科処置や救急処置についても学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の成立と胎児の発達について理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥、および新生児の生理について理解する。 3. 妊婦の健康診査について理解する。 4. 母性看護に必要な技術について理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、妊娠の成立と胎児の発育(榎引) 2. 妊娠の生理と母体の変化(榎引) 3. 妊婦の健康診査と観察法(榎引) 4. 演習:妊婦疑似体験(榎引・工藤) 5. 妊婦とスポーツ(榎引) 6. 妊婦体操(演習)(工藤・榎引) 7. 妊婦の栄養(榎引) 8. 胎児心拍モニタリング・NST(榎引) 9. 分娩の経過と分娩機序、分娩の3要素、分娩準備教育(榎引) 10. 分娩進行における産婦の観察と看護(榎引) 11. 産褥の生理と褥婦の観察(工藤) 12. 褥婦の看護、復古現象の促進、感染予防(工藤) 13. 出生直後の新生児の看護(榎引) 14. 早期新生児期の生理的変化(榎引) 15. まとめ 		
評価方法	<p>2/3以上の出席者について 定期試験 80%、出席状況 10%、受講態度およびレポート 10%</p>		
教材・教科書	<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門 25:母性看護学[2]母性看護学各論、医学書院(共用) 2. 榎引美代子:カラー写真で学ぶ周産期の看護技術、医歯薬出版株式会社 3. 榎引美代子:カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア、医歯薬出版株式会社 4. 榎引美代子:カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術、医歯薬出版参考書 <p>1. 吉沢豊予子編:女性看護学、真興交易(株)医書出版部 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。</p>		
留意点	母性看護学IIの学習に関連する科目である。自己学習すること。		

科目名	精神看護学概論	科目コード	N30027
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員			
概要	詳細については初回の講義で説明します		
到達目標			
授業内容			
評価方法			
教材・教科書			
留意点			

科目名	精神看護学 I	科目コード	N30028
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	菅原 大輔		
概要	<p>病院に入院している、あるいは地域で生活している精神障がい者の看護について、援助関係の持ち方を中心に援助方法を学びます。このため、この講義では、精神障がい者のコミュニケーションの特徴に触れ、精神障がい者との関係のつくり方、コミュニケーション技術、精神症状のとらえ方や統合失調症、気分障害、不安障害など障害を持った人々に合った援助の方法を学習します。</p>		
到達目標	<p>○統合失調症をモデルに発病と回復の過程をイメージできる。 ○精神(科)看護実践における倫理的側面を理解できる。 ○対人関係に乗せて提供する援助の基本概念を理解できる。 ○治療チームにおける看護の機能と役割を知る。 ○クライアントの生活についての色々な困難と課題および解決法を知る。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職と倫理綱領(精神科看護の専門性) 2. 精神障害者の理解の歴史 3. 現代の精神医療と看護の動向 4. 精神科病院の治療環境と看護の機能 5. 精神保健福祉法と患者処遇のガイドライン(1) 6. 精神保健福祉法と患者処遇のガイドライン(2) 7. 統合失調症の発病と回復過程のモデル 8. 統合失調症の発病と回復過程における看護の役割(1) 9. 統合失調症の発病と回復過程における看護の役割(2) 10. 薬物療法と看護の役割(1) 11. 薬物療法と看護の役割(2) 12. 看護における心理教育的アプローチの方法 13. 感情障害、強迫性障害の治療における看護の役割 14. 退院後も治療を継続するクライアントの生活像 15. まとめ 		
評価方法	<p>講義への出席状況、小テストの成績、レポートの提出などで15点、定期試験85点を合計(100点)して評価する。</p>		
教材・教科書	<p>教科書: 1) 阿保順子編:統合失調症急性期看護マニュアル、すぴか書房 2) シュルツ・ヴィデベック著、田崎・阿保・佐久間監訳:看護診断にもとづく精神看護ケアプラン(第2版)、医学書院 3) 新体系看護学全書、精神看護学②精神障害をもつ人の看護、メヂカルフレンド社</p>		
留意点	<p>○課題の提出期限を厳守すること。 ○小テストを軽視しないで事前の準備を怠らないこと。 ○講義中あるいは終了後に質問を用意できること。</p>		

科目名	公衆衛生看護学概論		科目コード	N30066
対象学年	2年	開講学期	前期 30時間	
必修・選択	必修	単位数	2単位	
授業形態	講義	時間割(学生記入)		
担当教員	池田 信子・川村 泰子			
概要	公衆衛生看護学の概念を学ぶ。また、公衆衛生看護学の歴史・理論と方法、および社会の変化に伴う健康課題と国際保健活動の概要を学ぶ。また、災害時の医療機関と連携した保健活動について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学の概念を理解する 2. 公衆衛生看護の場と対象を理解する。 3. 公衆衛生看護学の歴史を理解する。 4. 公衆衛生看護学に関連する理論を理解する。 5. 保健行動と保健活動の方法を理解する。 6. 災害保健活動を理解する。 7. 国際保健の変遷と国際保健活動を理解する。 			
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.公衆衛生看護学に関する概念 2.健康の概念と公衆衛生 3.公衆衛生看護活動の歴史 4.公衆衛生看護活動の歴史(保健師教育の歴史を含む) 5.公衆衛生看護活動の場と対象(行政・学校) 6.公衆衛生看護活動の場と対象(産業・在宅) 7.プライマリーケアとヘルスプロモーションの概念 8.ヘルスプロモーションと「健康日本21」 9.保健行動に関する理論 10.保健活動の方法 11.社会環境の変化と健康課題(都市化に伴うコミュニティの変化、環境の変化) 12.社会環境の変化と健康課題(人口構造・死因・職業・生活の変化) 13.災害保健活動の実際 14.国際保健活動の実際 15.まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16.地域保健活動の場と対象 17.地域保健と行政の仕組み (保健所・市町村) 18.地域保健と行政の仕組み 19.活動計画と地区診断 20.活動計画と評価 21.地域保健活動の方法 (保健指導のねらい) 22.地域保健活動の方法 (家族のとらえ方) 23.地域保健活動の方法(家庭訪問) 24.地域保健活動の方法(家庭訪問) 25.地域保健活動の方法(健康相談) 26.地域保健活動の方法(健康教育) 27.地域保健活動の方法(健康診断) 28.地域保健活動の方法 (住民グループ支援) 29.地域保健活動の方法 (地域全体の援助) 30.まとめ 		
評価方法	出席状況・学習態度・レポート・定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。			
教材・教科書	荒賀直子・後閑容子：公衆衛生看護学. jp 改訂第3版. インターメディカル. 2011 厚生統計協会：国民衛生の動向. 2011/2012			
留意点	授業で紹介された文献・ビデオ教材・国民衛生の動向などの自己学習による積み重ねが重要。3年次の公衆衛生看護活動論・3年次の公衆衛生看護活動展開論、個人・家族・集団・組織の支援などの科目につながる重要な科目。			

科目名	個人・家族・集団・組織の支援	科目コード	N40001
対象学年	2年	開講学期	後期 60時間
必修・選択	必修	単位数	4単位
授業形態	講義・演習	時間割(学生記入)	
担当教員	川村泰子		
概要	地域の人々の健康増進や療養しながら地域で生活する人々の健康課題を解決するために必要な支援方法について学ぶ。また、支援に必要な社会福祉制度や社会資源とその活用方法について学ぶ。		
到達目標	1.個人・家族への支援方法を理解する 2.個人・家族への支援を通し組織化するプロセスを理解する。 3.地域の健康課題を把握し、支援の計画・実施・評価の方法について理解する。 4.個人・家族・集団・組織を支援するための社会福祉制度と社会資源の活用と関係機関の連携について理解する。		
授業内容	1.公衆衛生看護の考え方と技術 2.家族保健指導 3.公衆衛生支援技術 4.家庭訪問 5.家庭訪問の技術 6.家庭訪問の進め方(演習) 7.家庭訪問の進め方(演習) 8.健康を支援する家庭訪問 9.健康相談の意義と方法 10.健康相談の過程 11.健康相談の評価 12.母子保健領域の健康相談 13.成人・老人保健領域における健康相談 14.難病・精神保健・感染症における健康相談 15.まとめ	16.健康教育とは 17.健康教育の位置づけ 18.健康教育の実践 19.健康教育(演習) 19.健康教育(演習) 20.健康教育(演習) 21.健康教育(演習) 22.グループ支援・組織化 23.地域集団を捉える指標 24.地域集団を捉える指標(演習) 25.地域集団を捉える指標(演習) 26.生活と社会保障 27.生活と社会保障 28.職場の健康管理 29.学校での健康管理 30.公衆衛生支援技術のまとめ	
評価方法	出席状況、学習態度、筆記試験等を組み合わせて総合的に評価する。		
教材・教科書	教科書：村嶋幸代編：公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 2012 参考書：		
留意点	演習は事前学習をし主体的に参加する。公衆衛生概論などの教科と関連づけ、予習、復習をする。		

科目名	在宅看護論 I	科目コード	N30034
対象学年	2年	開講学期	後期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間制(学生記入)	
担当教員	高田 まり子・松尾 泉		
概要	在宅看護の概念として、定義、歴史と社会背景を踏まえての現状、在宅ケアにおける在宅看護の役割、在宅看護の倫理と基本理念を学ぶ。また、在宅療養者の特性と在宅療養の成立条件、家族支援の基本、在宅療養者を支える制度、地域包括支援センターの機能について理解する。さらに、在宅看護の方法と訪問看護に必要な基本的看護技術と視点について学習し、訪問看護の特徴と訪問看護ステーションの機能について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念と基本理念を理解する。 2. 在宅看護の歴史と社会背景を知り、在宅看護の現状を理解する。 3. 在宅ケアにおける在宅看護の役割を理解する。 4. 在宅療養者と家族を支援する訪問看護の概要を理解する。 5. 在宅で行われる援助技術を理解する。 6. 在宅療養者を支える制度を理解する。(介護保険制度等) 7. 訪問看護ステーションの機能を理解する。 8. 地域包括支援センターの機能を理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護学の構造と在宅看護、在宅看護の概念、在宅看護の倫理と理念 2. 在宅看護の歴史と在宅看護の現状 3. 在宅ケアと在宅看護 4. 在宅看護の対象とその特性 5. 在宅ケアにおける看護の特徴 6. 在宅療養者と家族の支援(在宅療養の成立条件、在宅看護と家族) 7. 在宅療養者と家族の支援(家族の介護負担の現状と支援方法) 8. 在宅ケアを支える医療保険制度 高齢者を支える制度と社会資源 9. 介護保険制度 ① 10. 介護保険制度 ② 11. 訪問看護の特徴と在宅ケアを支える訪問看護ステーションの機能 12. 地域包括支援センターの機能 13. 在宅における援助技術(経管栄養・褥瘡予防・移動) 14. 在宅における援助技術(尿管カテーテルの管理・排泄の工夫他) 15. まとめ 		
評価方法	出席状況及び学習態度 10点・個人演習レポート 20点・定期試験 70点を組み合わせて総合的に評価する。		
教材・教科書	櫻井尚子他:在宅看護論 地域療養を支えるケア第3版2刷.メディカ出版. 2012 押川真喜子:写真でわかる訪問看護 第2版. インターメディカ. 2011		
留意点	主体的な学習方法として元ポートフォリオの作成や学習資料の共有化の機会を作っていきます。自己の学習目標を明確にし、日々の学習の振り返りをし(振り返りシートの記入)、学習を積み上げていく努力を期待します。この科目を修得しないと在宅看護論Ⅱは、受講できません。		

科目名	基礎看護学実習 I	科目コード	N31001
対象学年	1年	開講学期	後期 45時間
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	工藤 千賀子・渡部 菜穂子		
概要	看護実践の見学・参加、および受け持ち患者の日常生活の援助体験を通して、入院環境、患者、日常生活の援助技術、患者・看護師関係の成立を実際に学び、看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目指して、病院において患者を受け持つて行うものである。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境を知る 2. 患者とのコミュニケーション、人間関係の成立について理解を深める 3. 患者に必要な日常生活の援助を理解できる 		
授業内容	<p>実習施設:弘前市内および近郊の病院</p> <p>実習時期:後期後半</p> <p>実習方法:小グループに分かれ、配置された病院で、教員および臨地実習指導者の指導のもとに実習する</p> <p>実習内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 事前学習 ③ 病院実習 ④ カンファレンス ⑤ レポート作成 <p>その他、詳細については、「基礎看護学実習 I」要項を参照</p>		
評価方法	実習時間(45時間)の4/5以上の出席者について、「基礎看護学実習 I 評価表」に基づき、知識、技術、態度を総合的に評価する。		
教材・教科書	1年次に履修した授業に関するテキスト、参考書やプリント		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目を履修するには、「看護学概論」「基礎看護技術論」の単位を修得しており、かつ「基礎看護技術演習 I」の単位を修得見込みであることが必要となる。 ・実習中は身だしなみを整え、指定のユニフォームを着用する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分行って主体的に臨む。 ・健康管理に留意し、感染源とならないようにする。 ・全出席を原則とする。 		

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目コード	N31002
対象学年	2年	開講学期	後期 90時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	工藤 千賀子・渡部 菜穂子		
概要	医療機関に入院中の患者を受け持ち、看護過程を展開して看護を実践することを通して、患者の日常生活および健康状態を把握し、それぞれの患者に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を統合体として理解し、全体像を捉えることができる 2. 看護を展開する技術を理解し、指導のもとに展開することができる 3. 日常生活の援助を適切に実践することができる 4. 看護職として基盤となる倫理観や看護観を培う 		
授業内容	<p>実習施設:弘前市内および近郊の病院</p> <p>実習時期:後期前半</p> <p>実習方法:小グループに分かれ、配置された病院で患者を1名受け持ち、教員および臨地実習指導者の指導のもとに実習する</p> <p>実習内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 事前学習 ③ 病院実習 ④ 学内学習 ⑤ カンファレンス ⑥ レポート作成 <p>その他、詳細については、「基礎看護学実習Ⅱ」要項を参照</p>		
評価方法	実習時間(90時間)の4/5以上の出席者について、「基礎看護学実習Ⅱ評価表」に基づき、知識、技術、態度を総合的に評価する。		
教材・教科書	2年次前期までに履修した授業に関するテキスト、参考書やプリント		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目を履修するには、学生便覧に記載してある科目に加え、「看護過程論」の単位を修得していることが必要となる。 ・実習中は身だしなみを整え、指定のユニフォームを着用する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分行って主体的に臨む。 ・健康管理に留意し、感染源とならないようにする。 ・全出席を原則とする。 		

科目名	看護管理学	科目コード	N30010
対象学年	3年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	村田 千代		
概要	看護職として、人々により満足度の高い看護サービスの提供を組織的に行うためのマネジメントのあり方を学ぶ。看護管理の基本となる理論、組織目標を達成するための管理的・政策的視点、人材、資材、財源の有効利用などについて実践例と関連付けて学習する。その上に臨地実習等で体験したいろいろな場面から課題を選び、効果的な看護サービスを提供するためのマネジメントのあり方を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理とは何か。マネジメントのしくみ、方法を理解する。 2. 効率的な看護管理に必要な人材、資材、財源などの有効利用について理解する。 3. 看護専門職として、看護実践上の法的責任を理解する。 4. 看護実践の場と医療制度のしくみについて理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理とは 2. 看護におけるマネジメントの変遷 3. ケアのマネジメントと看護職の機能 4. 看護サービス組織の構造と機能 5. チーム医療、他職種との協働 6. 看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント 7. 医療におけるサービスの質の評価 8. 看護をとりまく諸制度:看護職と法制度、医療制度 9. 看護と行政組織、職能団体 10. 看護と経営:診療報酬の仕組み 11. リーダーシップとマネジメント 12. 看護職と生涯学習:専門職論、キャリア開発 13, 14. グループ討議 15. まとめ 		
評価方法	授業への出席状況、参加態度、課題レポート(10%)、試験(90%)により総合的に評価する		
教材・教科書	適宜資料を配布する。 上泉和子他著:系統看護学講座、看護管理、看護の統合と実践[I]、医学書院		
留意点	既習科目の「看護学概論」、「医療・看護倫理」や実習体験と関連づけて主体的に学習すること。		

科目名	国際看護論	科目コード	N30012
対象学年	4年	開講学期	後期 15時間
必修・選択	選択	単位数	1単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	大関 信子		
概要	国際化が進む中、医療の分野においても外国人クライアントや外国人看護師の急増という新しい時代を迎えている。本コースでは、看護師が看護学の理論や知識をグローバル化という時代の変化の中でも応用・展開できる基礎能力を習得すること目的とする。		
到達目標	<p>本コースでは、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションをとうして、以下のことを達成することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際化の現状を理解し、国際看護学の必要性を理解できる。 2. 病(やまい)や治療の多様性を理解できる。 3. 国際看護学の基礎理論の一つである多文化間看護学の M. レイニンガーの文化ケア論や文化アセスメントモデルを理解できる。 4. 国際化社会で看護の知識と技術を応用・展開できる<u>基礎知識</u>を身につけることができる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会と健康問題 2. 日本の国際化の現状と課題 3. 外国人クライアントと海外在留邦人の現状と課題 4. 国際化と看護の現状と課題(グループワーク) 5. 国際化と看護(プレゼンテーション) 6. 国際看護学の基礎: 医療人類学概論 7. 文化と病気観、病因論と治療の多様性 8. 近代医学と伝統医療(グループワーク) 9. 国際化時代に求められる医療(プレゼンテーション) 10. 国際看護学の基本となる理論 11. 国際看護とアセスメントモデル 12. 外国人クライアントのケアの注意点(グループワーク) 13. 国際化に対応できる看護ケア(プレゼンテーション) 14. 国際機関と看護師活動 15. ミニテストと解説、国家試験対策 		
評価方法	出席率・授業態度 10% プレゼンテーション 20% レポート 70%		
教材・教科書	随時紹介		
留意点			

科目名	家族看護学	科目コード	N30013
対象学年	3年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	楡引 美代子		
概要	<p>看護の対象としての家族に焦点を当て、現代の家族の諸問題を考えながら、「家族」の理論と家族支援の方法について学習する。</p> <p>また、家族のライフサイクルにおける機能を理解し、家族間の相互関係の発達と家族の危機状況から回復するための援助について学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における家族について理解できる。 2. 家族看護における看護職の役割を理解できる。 3. 看護の対象として、家族を捉えることができる。 4. 家族のアセスメント方法を理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学の歴史と発展 2. 家族の変容と概念 3. 家族の発達過程 4. 家族の形態と機能 5. 家族の健康と家族を取り巻く環境 6. 家族看護理論 7. 家族看護理論 8. 家族看護アセスメント 9. 家族看護診断 10. 家族看護計画 11. グループワーク 12. グループワーク 13. グループワーク発表 14. まとめ 15. 予備 		
評価方法	<p>2/3以上の出席者について 定期試験 80%、出席状況 10%、受講態度およびレポート 10%</p>		
教材・教科書	<p>随時、紹介する。 参考資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第4版、日本看護協会出版会 2. 小林奈美：グループで学ぶ家族看護論、医歯薬出版株式会社 3. JOANNA ROWE KAAKINNE：FAMILY HEALTH CARE NURSING 4th、F.A.Davis Company 		
留意点	<p>グループワークは、予習等の準備をして出席すること。</p>		

科目名	老年看護学Ⅱ	科目コード	N30020
対象学年	3年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	加賀谷 紀子・小野 綾		
概要	加齢による高齢者の生活の影響を理解し必要な看護の知識・技術について学習する。 高齢者の健康・自立を支えるための基本的援助を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「老年看護学1」で学んだ高齢者の特徴を基盤とし、加齢や健康障害が高齢者に及ぼす影響を知る。 自立を支援する視点を重視しつつ、高齢者の個別に応じた看護のアセスメントや援助に関する知識を習得する。 加齢による生活の変化とセルフケア支援のための援助方法を習得する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の特性—加齢による生活の変化とセルフケア支援—高齢者の生活機能(認知・心理・情緒機能) 2. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—バイタルサイン 3. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—コミュニケーション①高齢者のコミュニケーション能力 4. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—コミュニケーション②コミュニケーション障害(構音・言語障害)とコミュニケーションの援助と方法 5. 演習 6. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—移動①歩行と移動・②転倒転落とその予防 7. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—活動と休息①高齢者の活動と休息の意義 8. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—活動と休息②睡眠障害とその援助 9. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—清潔①全身・口腔ケア・外陰部の清潔 10. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—清潔②衣生活とその援助 11. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—食生活①食生活の援助 12. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—食生活②摂食・嚥下障害とその援助 13. 加齢による生活の変化とセルフケア支援—排泄・排泄障害①失禁とその援助 14. 加齢による生活の変化とセルフケア 	<ol style="list-style-type: none"> 支援—排泄・排泄障害②排便障害とその援助 15. 演習 16. まとめ 17. 看護の実践—ADLを広げる①(演習) 18. 看護の実践—ADLを広げる②(演習) 19. 障害別看護—パーキンソン病とその看護 20. 障害別看護—認知症と分類 21. 障害別看護—認知症の看護① 22. 障害別看護—認知症の看護② 23. 障害別看護—障害をもった人の看護(看護過程展開—演習)①認知症 24. 障害別看護—障害を持った人の看護(看護過程展開—演習)② 25. 障害別看護—障害を持った人の看護(看護過程展開—演習)③ 26. 地域・施設で生活する高齢者の看護—生活支援(認知症を中心に—演習—ロールプレイング)① 27. 地域・施設で生活する高齢者の看護—生活支援(認知症を中心に—演習—ロールプレイング)② 28. 地域・施設で生活する高齢者の看護—介護老人保健・福祉施設と社会保障・社会資源① 29. 地域・施設で生活する高齢者の看護—介護老人保健・福祉施設と社会保障・社会資源② 30. まとめ 	
評価方法	筆記試験 80点。レポート・演習参加状況 20点 (総合的評価)		
教材・教科書	新体系看護学全書 老年看護学①老年看護学概論・老年保健 老年看護学②健康障害を持つ高齢者の看護 メジカルフレンド社		
留意点	授業内容は、必要な知識のごく一部。積極的に幅広く学習し、予習、復習をする。		

科目名	小児看護学Ⅱ	科目コード	N30023
対象学年	3年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	齋藤 美紀子・齋藤 史恵		
概要	この授業では、これまでに学んだ小児看護学の知識と技術を統合し、看護実践へ適用するための能力を養う。また、主体的に学ぶ姿勢と、臨床的な判断能力・思考力を育成することをねらいとしている。授業の特色としてチーム基盤型学習(TBL)を取り入れ、グループダイナミクスを活用した学生主体の演習を展開する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護実践に必要な看護技術を習得できる 2. 疾患別の看護援助方法とその根拠となる理論をもとに理解できる 3. 小児の発達段階をふまえ個別性に応じた看護計画を立案できる 		
授業内容	<p>小グループを形成して演習を実施する。事例に基づいた学習ユニットを提示するので、学生は事前学習を行い、準備確認テストを受けたのちに演習課題へと進む。演習にはディスカッション、グループ発表、演習計画立案と実施、事後検討会、確認テスト等が含まれる。授業は2コマ連続で実施する。</p> <p>第1回:授業ガイダンス・シミュレーション授業 第2～4回:第1学習ユニット「呼吸器疾患をもつ児の看護」 第5～7回:第2学習ユニット「消化器疾患をもつ児の看護」 第8～10回:第3学習ユニット「先天性心疾患の児の看護」 第11～13回:第4学習ユニット「検査や処置を受ける児の看護」 第14～15回:第5学習ユニット「慢性疾患をもつ児の看護」</p> <p>※1学習ユニットの内容構成(3回の授業回数で構成) 1回目:確認テスト、事例に基づく応用演習課題 2回目:グループによるポスターセッションと討議、技術演習 3回目:技術演習の続き、学習のまとめと応用テスト</p>		
評価方法	出席が3分の2以上であることが評価の条件である。 事前確認テスト35点、事後テスト30点、ピア評価10点、演習課題・レポート25点		
教材・教科書	教科書:系統看護学講座専門22「小児看護学(1)」, 専門23「小児看護学(2)」, 医学書院 サブ教科書:臨床病態学 小児編, ヌーヴェルヒロカワ 参考書:ナーシンググラフィカ28小児の発達と看護、メディカ出版 ナーシンググラフィカ29小児看護技術、メディカ出版 その他随時紹介		
留意点	小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、疾病論(小児科学)等の知識を統合して実施する授業なので、幅広い復習が必要である。 演習は主体的な学習活動である。授業時間以外に多くの学習時間が必要となる。グループワーク、個人課題にかかわらず、準備不足の時には授業への参加を認めないことがある。提出物の期限は厳守すること。 この単位を修得しないと臨地実習は受講できない。		

科目名	母性看護学Ⅱ	科目コード	N30026
対象学年	3年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	榎引 美代子・工藤 優子・伊藤 理恵		
概要	母性臨床看護論Ⅰで修得した知識を発展させて、妊産褥婦および新生児の異常徴候について理解を深め、必要な看護について学習する。また、妊娠・分娩・産褥期の母体および新生児の看護に必要な基本技術を修得する。妊産褥婦、および新生児を取り巻く家族にも配慮して必要な保健指導について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.妊娠・分娩・産褥、および新生児の生理について知識を深める。 2.妊娠・分娩・産褥、および新生児の異常について理解する。 3.母性看護に必要な基本技術について理解し、修得する。 4.異常経過をたどる妊婦、産婦、褥婦、新生児の看護について学習する。 5.保健指導の必要性和理論を理解し、保健指導案の作成を学習する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、産褥期の乳房ケア(榎引・工藤) 2. 演習:乳房の観察・授乳指導(工藤・榎引) 3. 新生児の栄養と母乳(榎引) 4. 母乳栄養の進め方・哺乳量の見かた(榎引) 5. 妊婦と喫煙、妊婦とアルコール(榎引) 6. 妊婦と喫煙、妊婦とアルコール(榎引) 7. 妊娠期の異常と看護(榎引) 8. 産褥期の異常と看護(榎引) 9. 実習:胎盤検査(工藤・榎引) 10. 実習:胎盤検査(工藤・榎引) 11. 新生児の観察法(榎引) 12. 新生児の異常と看護(榎引) 13. 演習:新生児身体計測/CTGの判読(工藤・榎引) 14. 演習:新生児身体計測/CTGの判読(工藤・榎引) 15. CTGの判読発表(榎引・工藤) 	<ol style="list-style-type: none"> 16. CTGの判読発表(榎引・工藤) 17. 保健指導の理論(榎引) 18. 母性看護における保健指導の実際、育児指導(榎引) 19. 演習:沐浴/保健指導案の作成(工藤・榎引) 20. 演習:沐浴/保健指導案の作成(工藤・榎引) 21. 産科病棟および分娩室の管理(榎引) 22. 母性看護における社会資源の活用(榎引) 23. 看護過程(榎引) 24. 看護過程(演習)(榎引) 25. 看護過程(演習)(榎引・工藤) 26. 看護過程まとめ(榎引・工藤) 27. まとめ 28. まとめ 29. 予備 30. 予備 	
評価方法	4/5以上の出席者につき、定期試験(80%)、出席状況(10%)、レポート(10%)		
教材・教科書	教科書 母性看護学Ⅰと共用 <ol style="list-style-type: none"> 1.系統看護学講座専門 25:母性看護学[2]母性看護学各論、医学書院 2.榎引美代子:カラー写真で学ぶ周産期の看護技術、医歯薬出版株式会社 3.榎引美代子:カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア、医歯薬出版株式会社 4.榎引美代子:カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術、医歯薬出版 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。		
留意点	基礎看護技術を修得していることを前提とする。		

科目名	精神看護学Ⅱ	科目コード	N30029
対象学年	3年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	菅原 大輔		
概要	精神臨床看護論Ⅰをふまえ、精神障がい者の援助の仕方の理解を深めて、ノーマライゼーションのための精神保健活動を学習します。このため、この講義では、ひとりひとりの精神障がい者のおかれた状況や心の問題に深い理解を示し、その人に適した援助をするための支援の在り方や関係のつくり方に重点をおき、自己洞察や傾聴の仕方など不安を鎮め、自信や希望を与えるカウンセリング技術や自立を支える生活支援の方法を学びます。		
到達目標	<p>○困難な局面で援助を提供する方法を考えることができる。</p> <p>○各種の病態像をイメージし病状に多面的な理解があることを知る。</p> <p>○精神科での看護過程の展開の実際を理解し実施できる。</p> <p>○プロセスレコードを作成し関係づくりを通じた援助を考えることができる。</p> <p>○グループ活動に積極的に参加し楽しみながら学習できる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人格障害の治療と看護 2. 自傷行為の治療と看護 3. 急性ストレス障害の治療と看護 4. 認知症の治療と看護 5. 精神科リハビリテーション 6. 新しい地域精神医療と看護 (ACTによる専門多職種との協働) 7. 患者の暴力への対処 8. 援助関係を活用することの意義 9. 病態像の提示(1) 10. 病態像の提示(2) 11. 病態像の提示(3) 12. 病態像の提示(4) 13. 精神看護の看護過程モデル 14. 看護過程(1)情報収集 15. 看護過程(2)病状の経過把握 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 看護過程(3)problem の定義 17. 看護過程(4)problem の関連 18. 看護過程(5)care plan の作成 19. 看護過程(6)care の実施 20. 看護過程(7)care の評価 21. 看護過程のシミュレーション(1) 22. 看護過程のシミュレーション(2) 23. 看護過程のシミュレーション(3) 24. プロセスレコードの作成(1) 25. プロセスレコードの作成(2) 26. プロセスレコードの考察 27. グループワーク(1) 28. グループワーク(2) 29. グループワーク(3) 30. まとめ 	
評価方法	講義への出席、小テスト、レポートの提出(看護過程)などで15点、定期試験の成績85点を合計(100点)して評価する。		
教材・教科書	<p>教科書：[以下の2冊はいずれも2年次に購入済]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) シュルツ・ヴィデベック著、田崎・阿保・佐久間監訳：看護診断にもとづく精神看護ケアプラン(第2版)、医学書院 2) 阿保順子編：統合失調症急性期看護マニュアル、すぴか書房 		
留意点	<p>○課題の提出期限を厳守すること。</p> <p>○講義では積極的な意見発表や質問ができること。</p> <p>○精神看護学実習に直結した学習になるので、しっかり取り組むこと。</p>		

科目名	地域看護活動論 I	科目コード	N30031
対象学年	3年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	川村 泰子・工藤映子		
概要	<p>地域の健康課題を明らかにし、地域の人々と協働して健康課題を解決、改善する方法について学ぶ。また、地域の健康課題を解決するための地域での展開方法について、ライフサイクルに応じた保健活動をとおして理解する。</p> <p>保健活動を実践するために必要な技術を習得する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルに応じた地域保健活動を理解する。 2. 地区活動の手段として家庭訪問、健康相談等の技術を習得する。 3. 地域の健康課題をみいだすことができる。 4. 地域活動の展開方法を理解する。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護活動の展開 2. 個別支援の技術 3. 母子保健活動 4. 母子保健活動 5. 母子保健活動(演習) 6. 母子保健活動(演習) 7. 母子保健活動(演習) 8. 母子保健活動(演習) 9. 成人保健活動 10. 成人保健活動(演習) 11. 成人保健活動 12. 高齢者保健活動 13. 精神保健活動 14. 精神保健活動(演習) 15. 難病保健活動 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 感染症保健活動 17. 感染症保健活動 18. 歯科保健活動・ 19. 障害者保健活動 20. 地域保健管理 21. 地区診断・地区踏査 22. まとめ 23. 地区診断の実際(地域概要) 24. 地区診断の実際(人口動態) 25. 地区診断の実際 26. 地区診断の実際 27. 地区診断の実際 28. 地区診断の実際 29. 地区診断の実際 30. 地区診断の実際 	
評価方法	出席状況・学習態度、レポート、定期試験を組み合わせる総合的に評価する。		
教材・教科書	<p>教科書:荒賀直子 第3版 公衆衛生看護学 JP. インターメディカル 2011</p> <p>参考書:国民衛生の動向 日本公衆衛生協会 2012/2013</p>		
留意点	授業で紹介された文献・国民衛生の動向などの自己学習による積み重ねが重要です。2年次の地域看護学概論を復習し授業に臨んでください。		

科目名	地域看護活動論Ⅱ	科目コード	N30032	
対象学年	4年	開講学期	後期 60時間	
必修・選択	必修	単位数	2単位	
授業形態	演習	時間割(学生記入)		
担当教員	池田信子・川村泰子・松尾泉・工藤映子			
概要	地域で生活する人々の健康をよりよくするための公衆衛生看護管理の概念および保円計画や地域ケア体制作りのプロセスを理解する。さらに公衆衛生看護における危機管理の概要を学ぶ。また、活動場所の特性に応じた公衆衛生看護活動の展開について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.公衆衛生看護管理の概念を理解する。 2.公衆衛生看護管理の対象と制度を理解する。 3.地域ケア体制づくりを理解する。 4.健康危機管理を理解する。 5.活動場所の特性(学校・産業)に応じた公衆衛生看護活動の展開について理解する。 			
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域ケアシステム 2.学校保健 3.学校保健 4.産業保健 5.産業保健 6.国際保健 7.国際保健 8.健康危機管理と保健師活動(災害) 9.健康危機管理と保健師活動(災害) 10.健康危機管理と保健師活動(感染症) 11.健康危機管理と保健師活動(感染症) 12.公衆衛生看護管理の理念・目的 13.公衆衛生看護管理の対象(組織と人材管理) 14.公衆衛生看護管理の対象(社会資源管理) 	<ol style="list-style-type: none"> 15.公衆衛生看護管理の対象(情報管理) 16.公衆衛生看護管理の対象(事例管理) 17.公衆衛生看護管理の対象(地区管理) 18.公衆衛生看護管理の対象(予算管理) 19.公衆衛生看護管理の対象 20.保健計画・事業計画のプロセス(地域健康管理指針含む) 21.まとめ 22.~30 <p>事例を通して公衆衛生看護管理を考える</p>		
評価方法	学習態度、レポート定期試験組み合わせ、総合的に評価する。			
教材・教科書	教科書:荒賀直子・後閑容子著 公衆衛生看護学(第2版)インターメディカル 2010 参考書:平野かよ子編:公衆衛生看護管理論 メジカルフレンド社 2012			
留意点	既習の公衆衛生看護学および実習での学びを振り返り主体的に学習する。			

科目名	健康管理論	科目コード	N30033
対象学年	3年	開講学期	前期 30時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	時間割(学生記入)	
担当教員	池田 信子		
概要	人々が健康でかつ長寿を全うできるための諸条件を理解し、健康の時期における管理・健康増進、疾病異常時期の管理や早期発見早期治療について保健行政機関の役などについて学習を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康管理に基礎なる定義概念を理解する。 2. 健康管理活動の展開や技術を学ぶ。 3. 健康増進活動について理解する。 4. 健康に影響を及ぼす要因への対応を理解する。 5. 環境の管理について理解する。 6. 各種集団における健康管理活動の実際を理解する 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康管理と健康・疾病について 2. 健康管理の概念 3. 健康管理の歴史的展開 4. 健康増進の概念 5. 健康増進活動の実際 6. 疾病予防の概念 7. 感染症の予防 8. 成人病の管理、老年期に認知症 9. 難病、その特性と保健指導、遺伝疾患、精神保健管理 10. 環境の管理 11. 地域社会における健康管理活動の実際 12. 学校における健康管理活動の実際 13. 職場における健康管理活動の実際 14. まとめ 		
評価方法	出席状況・レポート、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。		
教材・教科書	教科書：なし 参考図書：厚生統計協会：国民衛生の動向．2012～2013		
留意点	健康管理学は、公衆衛生や、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護活動展開論、個人・家族・集団・組織の支援などの科目につながるの、参考図書は共通する。		

科目名	在宅看護論Ⅱ	科目コード	N30035
対象学年	3年	開講学期	前期 60時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	時間割(学生記入)	
担当教員	高田 まり子・松尾 泉		
概要	事例を中心に、在宅療養者の特性と在宅療養の成立条件、家族支援の方法、社会資源の活用、関係機関・関係職種とのチームケアの重要性と方法を学ぶ。また、訪問看護の実際を訪問マナー・訪問看護記録を用いた看護過程の展開などを通して学ぶ。さらに、様々な対象に応じた、在宅ケアを支える制度と社会資源の特徴を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護における看護過程を理解する。 2. 在宅療養者と家族を取り巻く看護の諸問題を理解する。 3. 在宅療養者と家族に対する看護を理解する。 4. 在宅ケアにおける関係機関・職種との連携とその方法を理解する。 5. 在宅療養者を支える制度と社会資源を理解する。 6. 在宅で行われる援助技術を理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護における看護過程 2. 3. 訪問看護の記録 4. 初回訪問のマナー 5. 在宅ケアにおける感染症 6. 在宅ケアシステムの実際(在宅ケアの連携とマネジメント含む) 7. 在宅療養と災害看護 8. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源 9. 障害者・子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 10. 在宅難病療養者を支える制度と社会資源 11. 在宅で療養している成人期の難病患者の看護(個人演習) 12. 在宅における援助技術(在宅人工呼吸療法) 13. 在宅における援助技術(在宅酸素療法・在宅CAPD療法) 14. 在宅ターミナル期の援助 15. まとめ 16. 17. 在宅で生活を希望する脳卒中後遺症の高齢者の看護(個人演習) 18. 19. 在宅で生活を希望する脳卒中後遺症の高齢者の看護(グループ演習) 20. 21. 看護の実際の演習(移動・摘便の技術・訪問マナーの実際含む) 22. 23. 24. 25. 26.27. 28 事例に応じた場面毎の援助の演習(グループで演示) 29. 30. テーマポートフォリオの発表 		
評価方法	出席状況・学習態度・個人演習30点、グループ演習20点、試験50点等を組み合わせて総合的に評価する。		
教材・教科書	H24年度2年次購入済みの、押川真喜子:写真でわかる訪問看護 第2版、インターメディカ、2011及び櫻井尚子他:在宅看護論 地域療養を支えるケア第3版2刷、メディカ出版、2011の教科書等使用		
留意点	演習では、各自の責任を果たしながら主体的に取り組むことが重要です。在宅看護論実習での看護過程の展開等中核となる教育内容です。在宅看護技術や看護過程の展開は基礎看護学の復習が必須です。この科目の単位を修得しないと臨地実習は受講できません。		

科目名	成人看護学実習 I (慢性期)	科目コード	N31003 3年生 N31004 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	135時間
必修・選択	必修	単位数	3単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	福岡 裕美子・畠山 禮子・新田 純子・周 馨麗・三上ふみ子		
概要	健康障害を持ちながら生活していく成人及び高齢者とその家族を総合的に理解し、対象の健康状態に応じた療養生活支援に必要な実践能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人および高齢者の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的影響を学ぶ。 2. 対象の状況に応じた看護技術を安全・安楽に配慮して提供できる。 3. 保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を学ぶ。 4. 看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を形成する。 5. 対象への支援を通して自己の看護観、死生観を養い、専門職としての倫理的態度を培う。 		
授業内容	<p>実習場所:弘前市および周辺の病院 実習期間:3週間 実習内容:</p> <p>①オリエンテーションと学内演習 実習初日にオリエンテーションを受け看護技術の演習を行う。</p> <p>②病院実習 入院中の対象者(患者および家族)を原則として1名受けもち、看護過程を展開する。 看護援助の実施にあたっては、臨床実習指導者、教員の指導のもとに行う。</p> <p>③実習のまとめ 実習記録を整理し受け持ち患者のサマリーを作成する。</p> <p>詳細については、成人看護学実習要項に基づき別途提示する。</p>		
評価方法	出席状況(日数、態度)、実習内容、実習記録、事前学習ノート等により評価する。		
教材・教科書	授業で使用したテキスト等。 野崎真奈美ほか:成人看護技術, 南江堂(成人看護学実習Ⅱ(急性期)と共通) 疾患別看護過程+病態概念図, 医学書院(成人看護学実習Ⅱと共通)		
留意点	健康管理に留意すること。事前学習をすること。		

科目名	成人看護学実習Ⅱ (急性期)	科目コード	N31005 3年生 N31006 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	135時間
必修・選択	必修	単位数	3単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	福岡 裕美子・畠山禮子・新田純子・周 馨麗・三上ふみ子		
概要	成人・老年期の発達課題や特徴をふまえ、急性期(周手術期含む)、リハビリテーション期にある対象と、その家族の健康問題を総合的に理解し看護の実践方法を学ぶ。対象のセルフケア能力に合わせた健康問題解決のための援助を行うことにより、既習の知識・技術との統合を目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期(周手術期含む)にある患者やその家族の身体的・心理的・社会的側面における特徴を把握し急性期に必要な看護が実践できる。 疾患や手術(他の治療も含む)によって起こりうる生活習慣や日常生活の修正、および社会的役割の変更が把握でき、患者がセルフケア能力を発揮できるように支援できる。 手術侵襲などによって患者に起こりうる術後の変化や回復過程が把握できる。さらに患者に必要となる術前・術後の看護が実践できる。 リハビリテーション期にある患者とその家族が、機能障害をどのように受け止めているか理解し、予測される合併症や二次的な障害を軽減、予防するための援助ができる。 急性期(周手術期含む)およびリハビリテーション期にある患者を取り巻く医療チームの構成や役割、連携が理解できる。 		
授業内容	<p>実習場所:弘前市および周辺の病院 実習期間:3週間 実習内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションと学内演習 <ul style="list-style-type: none"> ・実習初日にオリエンテーションを受け看護技術の演習を行う。 ②病院実習 <ul style="list-style-type: none"> ・入院中の対象者(患者および家族)を原則として1名受けもち、看護過程を展開する。 ・看護援助の実施にあたっては、臨床実習指導者、教員の指導のもとに行う。 ③実習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録を整理し受け持ち患者のケースレポートを作成する。 <p>詳細については、成人看護学実習Ⅱ要項に基づき別途提示する。</p>		
評価方法	出席状況(日数、態度)、実習内容、実習記録、事前学習ノート等により評価する。		
教材・教科書	授業で使用したテキスト等。 野崎真奈美ほか:成人看護技術, 南江堂(成人看護学実習Ⅰ(慢性期)と共通) 疾患別看護過程+病態概念図, 医学書院(成人看護学実習Ⅰ(慢性期)と共通)		
留意点	健康管理に留意すること。事前学習をすること。		

科目名	老年看護学実習	科目コード	N31007 3年生 N31008 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	180時間
必修・選択	必修	単位数	4単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	加賀谷 紀子・小野 綾		
概要	<p>地域社会や福祉施設において展開されている高齢者への看護・介護活動を参加見学または実施することによって、老年看護の対象である高齢者を理解し、援助方法、援助技術を学ぶ。</p> <p>《高齢者福祉施設で生活している高齢者の看護を学ぶ》</p> <p>高齢者福祉施設を利用している方々の毎日の暮らしの視点から、入所している高齢者を理解し、生活を支える看護を実践するための基礎的能力を養う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴と健康および生活に対するニーズを関連づけて理解できる。 2. 高齢者の健康の保持・増進、疾病予防に向けた日常の援助(介護・看護)活動を理解できる。 3. 高齢者の障害や健康状態に応じた援助(介護・看護)の方法や技術を理解できる。 4. 高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状を理解できる。 5. 保健医療福祉の関係機関・関係職種にチームメンバーとして参加し協働することの重要性を学ぶ。 6. 高齢者を対象とする看護活動の意義と責任を考える。 		
授業内容	<p>実習内容(老健施設実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1週目:月曜日(学内ーオリエンテーション)・火曜日・水曜日(学内)・木曜日・金曜日→(老健施設)実習 2週目:月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日(学内でまとめ)→(老健施設)実習 <p>*学内実習→記録の整理・課題に沿ったグループワーク・発表、まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 実習場所:弘前市周辺の高齢者福祉施設 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人 藤聖母園 特別養護老人ホーム 弘前大清水ホーム ・社会福祉法人 津軽富士見会 弘前特別養護老人ホーム ・社会福祉法人 三笠苑 介護老人保健施設 三笠ケアセンター ・医療法人鶴豊会 介護老人保健施設 弘前リハビリセンター ・社会福祉法人 七峰会 特別養護老人ホーム サンアップルホーム ・社会福祉法人 つがる三和会 特別養護老人ホーム 三和園 <p>実習の詳細については、老年看護学実習要項に基づき、別途提示する。</p>		
評価方法	評価表により、出席状況、実習態度、実習記録、実習目標の達成度を総合的に評価する(100点)		
教材・教科書			
留意点	事前学習をしっかりと行い、対象者の安全・安楽に留意し、自身の健康管理に努める。		

科目名	小児看護学実習	科目コード	N31009 3年生 N31010 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	90時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	齋藤 美紀子・齊藤 史恵		
概要	病院での実習を通して、健康障害を持つ小児と家族への具体的な看護援助方法および実践について学ぶ。医療チームにおける看護職者の役割を理解し、関連する他職種との連携と協働する態度を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の発達段階および疾患の状態に応じて適切な看護を計画・実践・評価することができる。 2. 小児とその家族が抱える健康問題解決にあたり、関連する他職種との連携と協働する態度を養うことができる。 3. 小児の発達段階や疾患の状態に応じた、小児にふさわしい入院環境について考えることができる。 4. 小児期にある人々の健康問題に関する倫理的課題および看護職者として必要な職業倫理を考え判断するための基礎的能力を身につける。 		
授業内容	<p>実習場所：弘前市および周辺の病院 実習時期：3年次後期～4年次前期 実習期間：2週間。実習の小グループごとに実施 実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション、事前学習および事前指導 ②実習(病棟、外来) 病棟実習では原則として1名の患者を受け持ちして看護計画を立案し、看護援助を実施する 外来実習により、小児の外来看護の特徴と役割を学ぶ ③まとめのカンファレンス、レポートおよびポートフォリオ作成 		
評価方法	出席(5分の4以上)、実習評価基準に従って総合評価		
教材・教科書	系統看護学講座専門22小児看護学(1)、専門23小児看護学(2)、医学書院参考書等は適宜紹介		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習にあたって最も問題となるのは感染予防と健康管理である。小児期の感染症について十分に学習して知識を深めておくとともに、感染予防行動を確実に身につけて臨む。自己の健康管理を徹底する。体調不良時は必ず申告すること。 ② 小児ウイルス性感染症の抗体価が低く予防接種を受けていない場合、実習は認められないのであらかじめ対応しておく。 ③ 実習生にふさわしい態度(対人面・学習面)を心がける。 ④ 主体的に自己の実習内容と到達目標を設定すること。学習が足りない時には実習を控えさせることがある。 		

科目名	母性看護学実習	科目コード	N31011 3年生 N31012 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	90時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	榎引 美代子・工藤 優子・伊藤 理恵		
概要	<p>□妊婦の健康診査や保健指導の見学、を通して妊娠経過と妊婦の変化について学び、対象の特性、ニーズを把握し、必要な看護を学ぶ。</p> <p>妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における母性看護の対象者の生理的変化および健康状態を理解し、一連の経過に応じて必要な看護を学ぶ。学内において修得した知識・技術を活用し、必要な看護を実践できる能力を養う。対象およびその家族の持っている個別性を考慮しての必要な保健指導を考える。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠各期の特徴と生理的変化について理解できる。 2. 妊婦の健康診査の必要性と必要な援助を理解できる。 3. 腹囲測定、触診、心音聴取等、妊婦の看護に必要な技術を修得する。 4. 分娩期の生理および分娩経過を理解し、ドロー役割ができる。 5. 生命の誕生について対象とともに共感できる。 6. 産褥期の生理および経過を理解し、必要な看護ができる。 7. 新生児の生理と変化を理解し、観察できる。また、異常を理解できる。 8. 対象の家庭的・社会的環境、家族等を考慮して、必要な保健指導を理解できる。 9. 母子の安全と産科病棟のあり方を理解し、より適切な病棟管理について考えることができる。 10. 母子保健医療チームにおける看護師の役割について理解を深め、チームの一員として協力できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 健診中の妊婦、褥婦および新生児を受け持ち、看護過程を通して看護の方法・実践を学ぶ。 3. 妊婦健診受診中の妊婦を受け持ち、看護上の問題を抽出する。 2. 産褥期の母子を受け持ち、看護過程を通して看護の方法・実践を学ぶ。 3. 分娩見学および産婦に必要な看護の方法・実践を学ぶ。 <p>実習場所のローテーションは実習オリエンテーション時に通知する。</p> <p>詳細は「実習要項」を参照。</p>		
評価方法	<p>4/5以上の出席者につき</p> <p>「母性看護学実習評価表」に基づき、知識、技術、態度、および出席状況を総合的に評価する。</p>		
教材・教科書	<p>授業で使用したテキスト、プリント、自己学習資料を活用すること。</p>		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学概論、母性看護学Ⅰ・Ⅱのすべてを修得していること。 2. 予め自己学習をして、十分に基本的知識を深めておくこと。 3. 全出席を原則とする。 4. 自己の健康管理に十分留意し、感染源にならないようにする。 5. 日々、予習・復習を行って、効果的に学習すること。 		

科目名	精神看護学実習	科目コード	N31013 3年生 N31014 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	90時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	菅原 大輔		
概要	精神保健上の問題を持っている人々を理解し、生活上に表れている障害とその心理状態をとらえ、治療環境をいかに生かしていくか、その治療環境を構成するメンバーの一人としてどのように関わるかを学びます。		
到達目標	<p>実習目的：精神に障害を持つ人々の理解と援助の方法を知り、広く心の健康について考えることができる。</p> <p>実習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神に障害をもつ人々のケアをとおして精神看護の対象を理解する。 2) 精神に障害をもつ人々が心の健康を回復するプロセスを理解する。 3) 精神に障害をもつ人々が社会復帰するための支援方法について理解する。 4) 精神に障害をもつ人々との関わりを自己洞察できる。 		
授業内容	<p>期間：3年後期あるいは4年前期のいずれか2週間</p> <p>場所：弘前市内および周辺地域の精神科病院およびデイケアなど</p> <p>方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に先立ち実習施設や受持ち患者の病態に関する事前学習を行う。 2. 病棟やデイケアでの実習では患者やメンバーを受け持ち、看護過程を展開する。 3. 受持ち患者やメンバーの治療場面に積極的に関与し、彼らの抱える諸問題を共に考える。 4. 精神科看護師によるケア場面に立会うことによって、看護の実際の機能と役割からその専門性を知る。 5. 患者やメンバーの周辺に展開されている他の精神保健福祉専門職の治療的な役割と機能を知り、看護と協働する実際の姿を知る。 		
評価方法	看護過程、援助関係、倫理的態度、実践態度、患者やメンバーと関わりを網羅した「精神看護学実習評価表」にしたがって評点をつけ評価する。		
教材・教科書	<p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新体系看護学全書、精神看護学②精神障害をもつ人の看護、メヂカルフレンド社 2) 阿保順子編：統合失調症急性期看護マニュアル、すぴか書房 3) シュルツ・ヴィデベック著、田崎・阿保・佐久間監訳：看護診断にもとづく精神看護ケアプラン(第2版)、医学書院 		
留意点	記録物は迅速かつ丁寧に仕上げ、自分の援助体験をもとに意見発表と記録ができるようにすること。		

科目名	地域看護学実習	科目コード	N31015 3年生 N21016 4年生
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	180時間
必修・選択	必修	単位数	4単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	川村 泰子・工藤 映子		
概要	地域社会で展開される公衆衛生看護活動の実際を参加見学することによって、公衆衛生看護の対象及び方法や技術の特性を理解する。また、地域社会における公衆衛生看護の意義を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会を看護の対象として理解し、地域社会の健康課題を地域特性と関連づけて理解できる。 2. 地域社会で生活する個人・家族を看護の対象としてとらえ、看護過程を通して家族への援助を理解できる。 3. 共通の健康課題をもつ人々を看護の対象としてとらえ、健康教育の参加見学を通して集団への援助を理解できる。 4. 地域で生活する人々に対する保健福祉活動は、いくつかの公衆衛生看護の方法を組み合わせて展開していることを理解できる。 5. 地域社会で生活する人々に対する看護活動は、保健医療福祉などの様々な分野の人々と連携・協働し、住民が主体的に保健行動できるよう支援する特性があることを理解できる。 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健所実習(6施設) 東地方保健所・八戸保健所・五所川原保健所・上十三保健所・むつ保健所 青森市保健所 2) 市町村実習(17施設) 青森市・今別町・黒石市・藤崎町・田舎館村・八戸市・おいらせ町・階上町・五所川原市・つがる市・深浦町・鯨ヶ沢町・鶴田町・十和田市・大間町・風間浦町・佐井村 2. 実習期間 3年次 9月～11月(3週間) 3. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション(事前学習:技術学習含・カンファレンス:日々・中間・まとめ等) 2) 保健所実習(地域保健医療行政の仕組み・関係機関の連携・地域における保健師のコーディネート機能、ヘルスプロモーション活動の実際) 3) 市町村実習(地域社会のアセスメント、地区視診、家庭訪問、健康教育、健康相談、健康診査、地区組織活動の実際) 		
評価方法	4/5以上の出席者につき、実習評価基準に従って総合評価を行う。		
教材・教科書	地域看護学概論、地域看護学活動論Ⅰ、健康管理論、公衆衛生学、疫学で使用する教材及び資料、国民衛生の動向等を活用する。		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設によっては滞在して実習を行う。 2. 社会生活のマナーに留意する。 3. 事前学習を十分に行い実習に臨む。 4. グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。 		

科目名	在宅看護実習	科目コード	N31017
対象学年	3年後期～4年前期	開講学期	90時間
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	時間割(学生記入)	
担当教員	高田まり子・齋藤美紀子・齋藤史恵・松尾 泉		
概要	在宅看護実習は、1 地域社会で展開される在宅看護活動の特徴と在宅療養者とその家族への支援方法を理解する、2 在宅における小児の看護を理解する、の2つを目的としている。1 については、訪問看護ステーションを利用する療養者及び家族のニーズや健康状態のアセスメントを行い、援助方法や技術を理解する。2 については、乳幼児の保育活動を通して、健康な小児の日常生活行動を理解するとともに、小児期の成長発達段階を個別的に理解し、小児の成長発達に応じた看護援助に必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	<p>【訪問看護ステーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の特徴と健康及び生活に対するニーズを関連づけて理解する。 2. 在宅療養者とその家族の健康の保持・増進、疾病予防に向けた日常生活の援助を理解する。 3. 在宅療養者の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助の方法や技術を理解する。 4. 在宅療養者を取り巻く保健医療福祉の関係機関・福祉の現状を理解する。 5. 保健医療福祉の関係機関・職種にチームメンバーとして参加し協働することの重要性を学ぶ。 <p>【保育所】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の日常生活行動を理解し、保育の実際を理解できる。 2. 小児期の成長発達段階に応じた具体的な援助方法を考え実践することができる。 3. 小児にかかわる専門職者としての態度を習得できる。 		
授業内容	<p>【訪問看護ステーション】</p> <p>実習場所：弘前市内・近郊の訪問看護ステーション 実習時期・期間：4年次前期（1週間：学内実習含む） 実習内容：訪問看護計画立案と実施、カンファレンス・在宅療養の調整会議等見学</p> <p>【保育所】</p> <p>実習場所：弘前市内の保育所 実習時期：3年次後期～4年次前期 実習期間：1週間。実習の小グループごとに実施 実習内容：①オリエンテーション、事前学習および事前指導 ②保育実習 ③まとめのカンファレンス、レポートおよびポートフォリオ作成</p>		
評価方法	出席（5分の4以上）、実習評価基準に従って総合評価（保育所30点、訪問看護ステーション70点）		
教材・教科書	訪問：在宅看護論Ⅰ・Ⅱ で使用した教材 保育所：系統看護学講座専門22 小児看護学(1), 専門23 小児看護学(2), 医学書院参考書等適宜紹介		
留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 実習にあたって最も問題となるのは感染予防と健康管理である。小児期の感染症について十分に学習して知識を深めておくとともに、感染予防行動を確実に身につけて臨む。自己の健康管理を徹底する。 ② 小児ウィルス性感染症の抗体価が低く予防接種を受けていない場合、実習は認められないのであらかじめ対応しておいてください。 ③ 実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。 ④ 主体的に自己の実習内容と到達目標を設定すること。学習が足りない時には実習を控えさせることがある。 		

科 目 名		領 域	科目コード
看護統合実習		基礎	N31025
		成人	N31026
		老年	N31027
		小児	N31028
		母性	N31029
		精神	N31030
		地域	N31031
		在宅	N31032
対 象 学 年	4 年	開 講 学 期	前期集中 90 時間
必修・選択	必修	単 位 数	2 単位
授 業 形 態	実習	時間割 (学生記入)	
概 要	看護実践分野での実習を踏まえて、自ら選択した実習分野で、看護チームの一員として実務に即した実習を行い、チームにおける看護師の役割と看護業務に必要な知識と技術を統合的に体験し、科学的根拠に基づいた判断による看護実践能力を養う。		
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の到達目標を明確にし、自主的に選択した実習分野において自己の課題に取り組み、科学的に看護を探究する能力を養う。 2. 科学的根拠に基づいた判断、計画、実施、評価できる看護実践能力の向上に努める。 3. 実務に即した実習を行い、医療チームにおける看護職の役割、および看護業務の実際を理解する。 4. 看護チームの一員として関連職種と連携・協働の必要性を理解する。 5. 看護専門職として必要な職業観と倫理観を培う。 		
授 業 内 容	<p>《方法》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践分野での実習を踏まえて自己の実習課題を明確にし、自主的に実習分野の選択、および提示された実習場所から実習場所を選択する。 2. 実習場所は学生の希望を尊重し、教員が小グループ実習を前提として調整し、決定する。 3. 複数の患者を受け持つ、外来実習等、看護チームの一員として実務に即した実習を行う。 4. 実習内容は、教員の指導のもとに実務内容と自己の実習課題達成を考慮して計画し、実習場所の実習指導者および教員の指導のもとに実践する。 <p>《内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習時期:平成 25 年 7 月下旬(2 週間) 2. 実習場所、実習内容については各領域ごとに提示する。 3. 実習までのタイムスケジュール <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年 1 月中旬:看護統合実習ガイダンスと看護統合実習の科目紹介をする。(①全体説明、②領域ごとに実習内容説明、③実習希望用紙の配布) ・平成 25 年 1 月下旬:実習希望調査の提出締め切り ・平成 25 年 4 月初旬:学生の実習領域配置決定・提示 ・平成 25 年 4 月、実習領域配置提示から看護統合実習開始前までに担当教員より、実習課題・実習到達目標・実習計画書作成等について指導を受ける。 		
評 価 方 法	出席、実習目標の到達度、実践活動、記録類により評価する		
教材・教科書			
留 意 点	事前学習を充分に行い、主体的に実習に臨むこと。		

科目名	科目コード	担当者	科目コード	担当者
卒業研究	N32001	櫛引 美代子	N32010	川村 泰子
	N32002	片桐 康雄	N32011	工藤 千賀子
	N32003	木村 紀美	N32012	工藤 優子
	N32004	三上 聖治	N32013	齋藤 美紀子
	N32005	加賀谷 紀子	N32014	新田 純子
	N32006	高田 まり子	N32015	菅原 大輔
	N32007	畠山 禮子		
	N32008	福岡 裕美子		
	N32009	片桐 展子		
対象学年	4年		開講学期	通年 120時間
必修・選択	必修	授業形態	演習	単位数
概要	この授業の目的は研究プロセスを経験することである。看護基盤、基礎・成人・老年・小児・母性・精神・地域の各分野において学んできた知識および技術などを生かして、将来の研究活動や実践活動での研究基盤を構築することを目的とする。指導教員から研究指導を受け、論文を作成し、発表する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究のプロセスを経験し、理解を深める。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 口頭発表用抄録を作成し、口頭発表できる。 4. 研究論文を提出できる。 			
授業内容	<p>担当教員の指導のもとに、研究成果を発表し、論文を作成する。 タイムスケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究原案提出日:2012年12月20日(木) 2. 担当教員決定:2013年1月31日(木) 担当教員が決定した後に、各担当教員と個々に話し合いを行い、研究計画書を立案する。 3. 研究課題提出日:2013年10月31日(水) 看護学部学務課へ提出する。 4. 研究論文草稿提出日:2013年11月22日(金) 担当教員へ提出する。 5. 抄録提出日:2013年11月29日(金) 看護学部学務課へ提出する。 6. 発表会オリエンテーション 詳細は後日連絡 7. 発表会:2013年12月7日(土) 8. 論文提出日:2013年12月13日(金) 看護学部学務課へ提出する。 看護学部学務課へ提出する。 			
評価方法	研究プロセスを含み、提出論文等により評価する。			
教材・教科書	特になし			
留意点	担当教員と密に連絡をとり、期日に遅れないように論文を提出すること。			